

ONSA-ニュース

No.24-2

第31回「みんなのくらしと放射線」展・・・1
第54回放射線科学研究会聴講記・・・4
大阪大学「レザ-イネギ-学研究中心」見学記・・・12
予告第23回放射線利用総合シンポジウム・・・14
日本学術会議近畿地区会議 学術講演会
「発電以外の原子力利用の課題と展望」報告・・・15

一般社団法人 大阪ニュークリアサイエンス協会
〒542-0081 大阪市中央区南船場3-3-27
TEL 06-6282-3350, FAX:06-6282-3351
e-mail: onsa-ofc@nifty.com
URL: <http://onsa.g.dg.dg.jp>
発行:平成26年9月

第31回「みんなのくらしと放射線」展 報告

専務理事 大嶋隆一郎

「みんなのくらしと放射線」知識普及実行委員会(大阪府立大学、ONSA他7団体)が主催する「みんなのくらしと放射線」展は、8月8日(金)から10日(日)迄の三日間、第31回として「くらしの放射線サマースクール」を主題に大阪科学技術センターで開催する計画を進めてきた。主な内容は放射線親子セミナー(8~10日)、放射線なっとく展(8~10日)、ハイスクール放射線サマークラス(10日)であった。この数年の方向として単なる展示ではなく出来るだけ体験型の内容にすべく事前応募制のイベントを増やしているが、今年度からは専用のホームページ(<http://www.housyasenten.com>)を立ち上げ従来にも増して周知度をあげることを目指した。ONSAのホームページとも相互リンクされており、最近の内容も公開されているのでご覧ください。

今回は8日、9日は予定通りに開催できたものの、最終日の10日



開場前の児玉教授によるスタッフ研修

は台風11号が未明に兵庫県西部を横断し、周辺地域に警報が出たために中止となり、二日間だけの開催に終わってしまった。10日にはメインイベントの第3回高校生対抗「ハイスクールサマークラス」を計画

し、本年度は前2回よりも多い9校の参加申し込みがあり、期待が高かったので中止せざるを得なくなったのは大変残念であった。ご準備いただいた各校の皆様には台風来襲という不可抗力であったとは言え、申し訳ない結



大阪科学技術センター玄関前の案内立て看板

果となってしまった。大阪府立大学では参加申し込み高校と調整して9月28日(日)に改めて開催する方向で検討しているそうである。

体験型イベントとして親子セミナーに関連してガイドツアー、クイズラリーを例年通り開催した。親子セミナーでは会場のある鞆公園でのフィールドワークを行っているが、例年スタッフは当日の天候状態が大変気になる。今年も両日とも気がかりな天候であったため時間単位の天気予報の降水確率を確認しながらの準備になったようである。また受付が館外の仮設テントの為、スタッフは雨や暑さ対策で苦労したことと思う。その他、子供たちの夏休みの自由研究対策にもなるという工作教室は賑わっていた。

展示は『みる・はかる・わかる 放射線なっとく展』とのタイトルで、8階中・小ホールを会場として開催した。内容に関しては昨年度の反省を踏まえて一部修正を行っただけで、大幅な変更はなかったが、



福島第一原発事故関連では新しいデータを加え、また大阪科学技術館2階で同時期に開催されていた特別報道展「福島の記録」の案内も行った。それでもパネルをみたOBの方からは内容の一部が正確さにかけるとの指摘もあり、学術的内容を一般の方々にとどこまで正確に端的に視覚化出来るかは難しい課題である。

会場の両端にはワークショップコーナーと食品の放射線モニタリングのスペースをとり、中央部の両側の壁

際に沿って1.放射線・自然放射線とは、2.放射線を見る、3.放射線をはかる、4. くらしとのかかわり、5. くらしへの応用、6. そこが知りたい!放射線Q&A、7. 福島の事故による影響と今後などのパネル展示に加えて霧箱、ハンドフットクロスモニター、サーベイメーターなどの実演展示を行った。また、ONSAからお願いしてポニー工業(株)、ビームセンス(株)各社からご提供頂いた、卓上型貴金属X線分析計、小型X線透視装置は例年放射線の不思議をこども達が体験できる大変人気のある展示であり、二日間で終わったのはすこし勿体なかった。

展示会会場では、新しい試みとして韓国原子力機関のご協力で、検疫用放射線滅菌を行った切花を韓国より空輸し、会場で展示するとともにアンケートに答えていただいた来場者に切花をプレゼントした。目玉のイベントの一つであり、集客力もあったが、最終日の中止により、韓国からわざわざ会場にお出でいただいた先生方にもお気の毒な結果となった。



こども達に食品モニタリング装置の検出器の内部をみせて説明する児玉教授

また、特別パネル展示「関西の原子力・放射線施設」の展示場所が昨年度は来場者が足を止めにくいスペースであったとの反省から、今年度は2階のテクノ君広場の科学工作教室に隣接するブースに場所を移して訪問者数の増加を目指した。

さらに例年にも増して放射線展全体の集客を図るために大阪科学技術センターや関連機関が開催するイベントと連携することに力をいれた。8月9日(土)には大阪科学技術センターが、展示会場の向いの会場で、子供たちに人気のある「サカナ君」のおはなし

会を午前と午後には回ずつ開催し、終了後に参加者を展示会場に導いた。その効果は大きかったと思う。また、大阪科学技術センターのゆるキャラであるテクノ君も会場に顔(?)を見せるなど会場を盛り上げていただいた。

大人向け連携イベントでは、日本原子力文化財団が8日午後に地域セミナーとして、人工衛星「まいど一号」の打ち上げプロジェクトの代表発起人で有名になった東大阪の青木豊彦氏(株式会社アオキ)のエネルギーに関する講演会を開催し、引き続いてその向いの会場で関西原子力懇談会主催(協力:放射線知識普及連携プロジェクト)による「放射線フォーラム」が開催された。地域セミナーでは関電の応援団を自認する青木氏の河内弁での迫力ある話に参加者は多いに引き込まれ、講演後の関西電力(株)からの「リサイクル燃料貯蔵センター」の説明に対しては市民の方々の正直な心配の質問があり、市民感覚の一端にふれることが出来た。しかしながら、青木氏からは「関電さんはPRが下手や」という辛辣なコメントもあり、筆者も同感するところがあった。地域セミナーが予定時間をかなりオーバーしてしまったために「放射線フォーラム」の開始が少し遅れてしまった。

「放射線フォーラム」では近畿大学の渥美寿雄教授の司会で話題提供としてコープふくしま除染チームアドバイザーの佐藤理氏(福島学院大学教授)から「福島での放射線をめぐる現状 - 陰膳方式による食事調査」に関する講演と当協会シンポジウムでもご講演頂いた宇野賀津子氏((公財)ルイ・パストゥール医学研究センター)から「低線量放射線の人体への影響と食の重要性」の二つの講演があり、引き続いてパネル討論「福島での放射線をめぐる現状」をテーマに上記二人の講師に児玉靖司氏(大阪府立大学大学院教授) 澤田有紀氏(弁護士)の方々がパネリストとして加わり討論が行われた。渥美氏がうまく最後をまとめられたが、フロアからの質問も受け入れてもう少し時間的余裕があればなお良かったという印象であった。関西にいると福島の食の問題についてメディアからの偏った情報しか届かないが、今回は佐藤氏から福島の生の声を聞く機会を頂き、大変勉強になった。



会場に突然現れたテクノ君



会場風景

なお、事務局からの速報では8月8日、9日の両日で1002名の参加者があり、中止となった最終日も風雨が落ち着いた午後には閉館を知らずに訪れた方が35名おられたそうである。

ONSAのスタッフも二日間共会場に詰め、オンサニュースでも放射線展の案内を協会関係者に回報したが、こども相手のイベントとの認識を持たれているのか、来場していただく関係者の方が少ないように思う。来年はぜひお子様、お孫様と一緒に会場にお出で頂くことを願っております。



会場風景